

むかわけい 慧

活動レポート(令和4年第5号)

相模原市の財政について

<むかわけいプロフィール>

1988年(昭和63年)生まれ

北相武台小(もえぎ台小)、相武台中卒、大検合格、早稲田大卒、博士(工学)

前職は国家公務員(経産省、内閣府での職務を歴任)。一児の父として子育てにも奮闘中!



✉ kmukawa0126@gmail.com

☎ 090-8042-5334

事務所: 南区相武台2-24-6 1階2号

皆さん、こんにちは!

本報では、“むかわけい”の市政に関する論考をお伝えします。

堅苦しいかもしれませんが、政治に真面目な意見提示・議論は不可欠。

是非ご一読ください!

令和3年度決算、相模原市の
収支は246億円の黒字

今年8月、相模原市の令和3年度決算は驚く結果であった、と同時に多くの疑問符が付くものだ。年度開始前の市のアウンスでは令和3年度は約67億円の財源不足額が生じる見込み(予算編成資料)とのことだったが、蓋を開ければ決算収支(実質収支)は赤字どころか246億円で巨額の黒字である。財源不足とは一体何だったのか。

令和元年に突如発表された行財政構造改革プランは、市は財源不足であることを市民に周知徹底し続けてきた。

そのため近年、地域文化活動の予算が縮減される事例が後を絶たず、コミュニティバスなどの地域新交通政策は日の目をみる気配もない。市民の知性涵養の場である図書館を一部廃止する決定にも驚かされたが、市が所管する公園の除草作業すら手が行き届かない現状には憤懣やるかたない。そこまでしてコストカットに邁進せざるを得ないのだから、余りガネなどあるはずもない。しかし巨額の黒字が生じているというのではないか。市は我々から預かった税金を貯め込んで、どうしようというのか。

<令和3年度の決算が公表>

さがみはら市の決算収支は

246億円(黒字)

市が前年度に発表した「60億円の財源不足見込み」とは真逆の結果に。

過去から黒字は続いている

市が財源不足を対外的に唱えだしたのは平成27年度予算編成方針からだ。予算編成方針発表のタイミングは毎年秋頃で、この期に「財源不足」が報じられる。しかしその2年後の決算発表では「収支は黒字であった」との報告がされるのである。この構図は平成27年度以降から毎年続いている(裏面・左上表)。

予算編成の段階で発表される数字はあくまで“見積もり”である。それが外れることはある程度仕方ないことだ。しかし、10年近くに渡り、見積もりと決算に乖離が生じすぎてはしないか。市は乖離が生じた理由を明示すべきではないか。

市にお金がない」はポジショントークに過ぎない

勿論、毎年度余剰金が発生しているからといって、その額面だけを捉えても市の財政状況に判断を下すことはできない。しかし、地方財政法が定める財政状況の各種判断指標をみれば、相模原市は財政状況に問題はない（「行政サービスの質が悪いことをも意味する」とすら言える状況にある（詳細は割愛する。総務省決算カードを参照）。

少なくとも、さう見たつて財政状況は悪い」と断言することはできない。市はお金がない」との主張はポジショントークに過ぎない。

市は余りガネの使途についてビジョンを示すべき

市の支出抑制と巨額黒字の確保の方針に根拠ある道筋はあるだろうか。

確かに、行財政構造改革プランでは、社会福祉費の増加傾向や公共施設の長寿命化、橋本駅周辺整備事業などの大規模整備事業などの拡大する行政需要に対応できる財源確保を目的と謳っている。

しかし246億円の黒字など直近の財政運営の成果が、右記の行政需要に向け、どのように振り分けられるのか、具体的な金額を含めた使途については不明瞭のままである。

考えたくないことだが、毎年度見積もり段階で財源不足を煽り、支

出抑制の方便としたものの、コストカットに励みすぎた結果、使途が決まらないカネがブタ積みされ続けた、という本末転倒の図式となつてはしないだろうか。

使途を共に論じよう

市が使途を明示しないのなら、市民にもまだ選択肢の提示に余地はある。

コミュニティバスの運営や子供手当の増額もあり得るし、住民の知性涵養の基盤はやはり必要として、廃止される予定となつた相武台図書館の存続を求めてもよい。

現下の世界情勢を踏まえ、安全保障関連の起業誘致や人材育成、食料安全保障の環境で都市農業家の若手育成に大胆に補助金を投入してもよいだろう。現役世代の雇用や所得の向上を目指すため労基署・職業訓練所の機能強化に取り組んでもよい。

あれもこれも」という訳には当然いれないが、バラマキでない先行投資としての選択肢はいくらでもある。加えてこれらの投資があつてこそ、新たな税収源も事後的に生まれるのだ。

今般の決算発表を受け、いよいよ「コストカット」一辺倒の財政運営は説得力を失うこととなった。未来への投資を論ずる政治家は戦後荒廃機期を乗り越えた昭和の時代と比べて少なくなつたように思う。私は令和の時代にあつても、故郷の将来を見据えた論を張る政治家と成りたいのだ。何としても、来年度の市議会で、質実剛健の論を喚起していく所存だ。

事前に「財源不足」を謳うも 決算の収支は毎年度黒字である

年度	財源不足額		決算収支額	
	前年発表の見込み額	実績	前年発表の見込み額	実績
H27	▲27億	72億	▲27億	72億
H28	▲34億	63億	▲34億	63億
H29	不足なし	78億	不足なし	78億
H30	▲34億	82億	▲34億	82億
R元	▲34億	91億	▲34億	91億
R2	▲60億	101億	▲60億	101億
R3	▲67億	246億	▲67億	246億
R4	▲22億	R5夏発表	▲22億	R5夏発表
R5	▲45億	R6夏発表	▲45億	R6夏発表

ご一読いただき、ありがとうございました。
 将来像なきまま、集めた税金を貯え続けるのではなく、
 私たちの暮らしの質を高めるため、
 どのような支出が必要か。
 市議会での本格的な議論は待ったなしの状況です。

